



ARGONAUTES

別府大学図書館報

アルゴノートNo.56

CONTENTS

ちいさいうち…………… 浅野 則子
 Eleanor H. Porter, *Pollyanna*(Puffin Books) … 河野 豊
 ディラックの海に浮かぶニライカナイで本を読む … 樋園 和仁
 図書館での my 書架、書店での my 書棚 … 工藤 邦彦
 図書館報『アルゴノート』と佐藤義詮先生 … 飯沼 賢司
 別府大学附属図書館・司書課程共催 図書館見学ツアー 2021 … 佐藤 晋之
 附属図書館 1 階をリニューアルしました
 第 12 回選書ツアーの実施



ちいさいおうち

別府大学附属図書館長 浅野 則子

「むかしむかし、ずっといなかのしずかなところにちいさいおうちがありました」

この書き出しで始まる絵本『ちいさいおうち』はおそらく、私の記憶の中に一番長く残っている書名であろう。この本はアメリカの絵本作家バージニア・リー・バートンが1942年、アメリカが高度成長していく時代に息子のために書いたものと言われている。日本での刊行は1954年というから、私の幼い頃の絵本としては、古典とは言えない。

「ちいさいおうち」は岡の上から豊かな自然を眺めて暮らしていた。朝になるとお日様がのぼり、夕方には沈んでいく。少しずつ変化する自然の中で「ちいさいおうち」だけは変わらずにいた。ずっと続くと思われたこの光景は、ある日変化してしまう。「ちいさいおうち」はやがて大きな時代の流れに組み込まれ、大きな街の一部となり、気の毒な姿をさらすことになる。

幼い私を読書好きの子供に育てようと母は絵本をよく買って来て、それを読み聞かせてくれた。でも必ずしもすべて気に入るわけではなく、一度読んだらもう手に取らなくなるものもあったらしい。そのなかで、この絵本だけはとても気に入ってじっと読んでいたという。まず、やさしい色遣いが幼い私の心をとらえた。そして「ちいさいおうち」が自然のなかでどんどん変わっていく様子は何度読んでもおうちに変化があるたびにどきどきし、「ちいさいおうち」がかわいそうな姿になると悲しくなったものだった。この絵本は人が自然とともに生きていくことの大切さを静かに語っている。

やがて、「ちいさいおうち」は建てた人の子孫

によって自然の中に移され、昔と同じように豊かな自然に囲まれ静かに暮らしていく。「ちいさいおうちは、うれしそうに、にっこりしました。またお日さまをみることができ、お月さまやほしもみられます」この部分に行きつくと、幼い私は何度読んでもうれしくなったものだった。まだ自然が残っていた自分の家の周りの様子と重ねていたのかもしれない。

去年の春、私の小さな友人が父親の転勤で東京へ行くことになった。プレゼントには迷わずこの絵本を選んだが、はたして気に入ってくれるか不安はあった。後で聞くとところによると一人でじっと見入っているとのことであったが、もう時代は変わっていて、多分私とは感想は異なっているだろうと思っていた。そんな時、両親とともに大分へ旅行に来た小さな友人と会うことになった。「ちいさいおうち、かわいそうだったけれど、さいごは幸せでよかった」と私のそばに来て小声で言ってくれた。「そうね。私も同じ」といって二人でほほえみあった。だいたい年の違う小さな友人と意見を共有できたことは何よりうれしかった。この友人が大きくなった時、また新たな小さな友人にこの本を伝えてくれるだろうか。そして、「ちいさいおうちはうれしそうに、にっこりしました」の部分がうれしくて、ほほえんでくれるだろうか。



Eleanor H. Porter, *Pollyanna* (Puffin Books)

国際言語・文化学科 河野 豊

初めて文庫本というものを買ったのは中学1年の時だった。買ったのは新潮文庫のカフカ『変身』とポー『黒猫・黄金虫』。買った日は1972年10月6日(歳がばれますね)。なぜ正確な日付を覚えているかというとその日からずいぶん後まで買った本は日付と値段を記録することしたからである(その習慣は以来世紀が変わるころまで続いた)。

同様に初めて買った洋書はSFで、題名は省略するが、買った日は1975年1月6日。高校受験を控えて勉強していた頃である。たいして、というかほとんど読めないのに京都の丸善で衝動買いした。1ページ目から知らない単語のオンパレードでそのときは結局最後まで読めなかった。

しかし、ペーパーバックの洋書がもつ独特のにおいに惹かれたこともあり、所有だけでも満足し、高校進学後も何冊か買った。その中の1冊が今回紹介するEleanor H. Porterの*Pollyanna*である(掲載画像がそのときの本。表紙はBBCのドラマ(1973)で主役を演じたElizabeth Archard)。

*Pollyanna*は現在ではいわゆる児童文学として読まれているが、そもそもはアメリカの週刊紙『クリスチャン・ヘラルド』に連載されていたので(1912年11月～1913年2月)、最初から大人も読んでいたと思われる。本学附図書館のウェブサイト内にリンクが貼ってあるHathiTrustで検索すると掲載紙のpdfが出てくる。これには感激した(このHathiTrustは驚くべきサイトで、今まで苦労して入手していた原文、入手さえおぼつかなかった原文を簡単に見ることができる)。

*Pollyanna*の英語は高校1年レベルなので(英語圏での対象年齢は10歳以上)、当時の私でも読むことができた。原書を読んでから、村岡花子の訳を見たが、自分のイメージと違うのでそちらは読んでいない。

*Pollyanna*は主人公の名前で、今では辞書にも載っている。しかしあまりいい意味ではない。「盲目的な楽観者」(研究社新英和大辞典)、「超楽道家」(小学館プログレッシブ英和中辞典)、「底抜けの楽道家」(リーダーズ英和辞典)、等さんざん言われようである。

確かに物語から窺える*Pollyanna*はそう言われても仕方のない少女である。しかし、作者は敢えてそういう人物造形にしたのではないだろうか。人の善意というものが素直に信じられる古きよきアメリカの一面がよく表れている。初版の発売後1年で100万部以上売れた大ベストセラーになったのもそのことと無縁ではないだろう。*Pollyanna*は映画『オーケストラの少女』(1937)の主人公Patsyに通じるものがある(二人の名前が同じPという破裂音から始まるのは偶然だろうが、Pという音の持つニュアンスがそうさせたのかもしれない)。なお、本作には続編*Pollyanna Grows Up*がある。





ディラックの海に浮かぶニライカナイで本を読む

食物栄養学科 樋園 和 仁

情報リテラシーの原点は読書であり、読書で得られたことをロジカルに、批判的思考することが大事であることは『論語』を取り上げるまでもなく、人生の大事なパーツです。小学生の頃は『シートン動物記』や『椋鳩十等』を読みました。特に夏目漱石の『二百十日』という小品は繰り返し読んでいて、独特の侘しさとコミカルな内容が絶妙に混在していて、最初はコメディに思えたものがトラジエディをも感じさせる作品です。

中学生の時が最も濫読していて、安部公房は特に好んで読みましたが、多彩な分野の本と邂逅したことが、ターニングポイントになっています。高校生以降は『遊』という雑誌を読んでいました。デザイナーに杉浦康平、編集者に博覧強記の松岡正剛がいて、多岐にわたるジャンルが融合された内容が差し響きました。その頃に読んだ光瀬龍の『百億の昼と千億の夜』は雄大なスケールを感じさせる内容で、登場人物も主人公の阿修羅王、プラトンからナザレのイエスまで个性的で、興福寺の阿修羅像や広隆寺の弥勒菩薩半跏思惟像から宇宙までも囁くようになりました。

多忙な研修医時代を経た後に想起させる一冊としては、塩野七生の『チェーザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』があります。先の『百億の昼

と千億の夜』に阿修羅王が悉達多太子に「人間、孤独であるよりは悪とともにあったほうがよいとみえるな」と言う件があり蓋し名言。悪名高き毒薬のボルジア家ではありますが、マキャベリ同様に私も心引かれて、悪役が主人公の映画を私が好きなのも、そういう所以なのかもしれません。

これから読んでみたい本に、記号学者でもあるウンベルト・エーコの『薔薇の名前』があります。アビニオン教皇庁時代の修道院が舞台ですが、その中のラビリンス構造の図書館や本が話の緒となっていて興味深いのですが、『詩学』や中世ヨーロッパの宗教史の知識の拙さ故、途中で投げ出しそうなので手が出せないでいるところです。読まれた方は、ぜひ所感を聞かせて下さい。

読書遍歴を綴っていると、子どもの時から時が流れていくのが早いものと感慨にふけていましたところ、「時間は空間と同じような広がり、物理的に時は流れない」という内容の本に会いました。時が流れるように感じるのは、ヒトの空間認知と時間認知の差に起因するようで、このように一冊の本が私の価値観を変容させてくれることも読書の愉しみと思っています。

木蓮や読書の窓の外側に 正岡子規

図書館での my 書架、書店での my 書棚

司書課程 工藤 邦彦

附属図書館2階の一角に、NDC（日本十進分類法）の区分表の「010 図書館、図書館学」に関する図書の専用書架があります。スタートにあた

る010の分類は、図書館・図書館学全般を指します。少し分野・領域を狭めると、011: 図書館政策、図書館行財政、012: 図書館建築・設備、013: 図

書館管理といった具合に図書館に関する事象が続
き、以降を割愛しますが最後の019には読書・読
書法に関する図書が収められています。至極当た
り前の話しですが、この書架をブラウジングすれ
ば、図書館をテーマ・トピックとした図書の全容
を知ることになるわけで、私は時間があればこの
010の開架書架にある図書を眺めます（むろん、
閉架にあたる積層書庫にも010の図書は所蔵して
います）。

私は街なかにある書店に行き、図書館・図書館
学に関する書籍のある棚を眺めます。もちろん、
書店はNDCを意識した書棚の構成ではありません
が、「図書館」という見出しが付いた棚には、
大体010に該当しそうな新刊書が並んでいます。
私は事前に新聞の書評欄で図書館や読書に関係す

ると思われる新刊書を見つけると、書店に行き書
棚に新刊書が並んでいるか否かをチェックするこ
とにしています。見つけた本を購入することが書
店の経営にとってよいのでしょうか、すぐには
無くならないと思ってそのまま書棚に戻してし
まいがちです。

規模の大きい書店に行って気づくことは、総じ
て「図書館」という見出しがある書棚が店のかな
り奥まったあまりお客さんが足を運ばないエリア
に置かれていることです。図書館に関する本は、
いわゆる売れ筋が少ないのでしょうか、私に
っては必要不可欠な書棚です。

学生の皆さんには、自分の興味や関心のある分
野を想い浮かべ、図書館でのmy書架、書店での
my書棚を持ってほしいと思います。

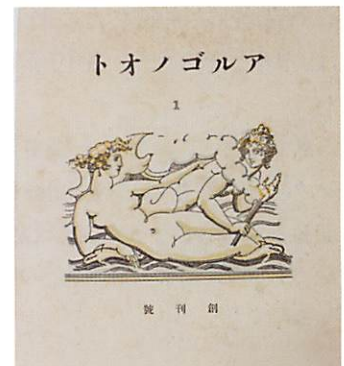
図書館報『アルゴノート』と佐藤義詮先生

学長 飯 沼 賢 司

私は大学創立70周年記念誌『別府大学開学も
のがたり』の執筆のため、8月の夏休みを利用し、
軽井沢のルヴァン美術館を訪れました。ここは本
学の創立者佐藤義詮先生が学んだ文化学院を受け
継いだ美術館です。このとき「西村伊作の理想の
学校文化学院」という展示が開催され、文化学院
創立者西村伊作の曾孫の立花万起子さんと孫の立
花利根さん（元文化学院副院長）とお会いするこ
とができました。二人とお話する中で、自由主
義者西村伊作の人柄が義詮先生と重なる部分があ
ること知りました。また、展示でも触れられてい
た文化学院大学部1期生らが刊行した同人誌『ア
ルゴノート』という雑誌に話が及び、この編集に
義詮先生が深く関わっていたのではないかと聞き
ました。しかし、残念ながら、この雑誌はこの美
術館にもないとのことでした。

この雑誌の名前は、別府大学の大学通信に受け
継がれ、今は大学の図書館報『アルゴノート』の

名前となっています。図書館報のタイトル表記は
『Argonauts』であり、読みとしては「アルゴノー
ツ」です。この意味は、ホメロスの詩に謳われた
「苦難を乗り越えたアルゴ船の乗組員」に因んだ
名前で、若き義詮たち1期生が荒波に立ち向かう
思いが込められていたと思います。私は、大学に
戻った後、本学図書館でこの雑誌『アルゴノート』
の話をする時、先年古本屋で創刊号と2号を購入
していることを知り驚きました。創刊号を繙くと、
編集後記を書いていたのは佐藤義詮
先生自身でした。こ
こに、先生自身が大
学に込めた熱い思
いが見え、それは今
も受け継がれてい
ることをあらため
て知りました。





別府大学附属図書館・司書課程共催

図書館見学ツアー 2021

司書課程講師 佐藤晋之

2021年11月28日(日)、別府大学附属図書館と司書課程の共催で図書館見学ツアー(以下、見学ツアー)を開催した。見学ツアーは、コロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止措置が解除され、感染状況が小康状態の時期に開催した。見学先の選定は、県外施設は自粛し、県内施設を検討した。その結果、県内において比較的新しくリニューアルされた竹田市立図書館を中心に周辺の文化施設を見学することに決定した。参加者は、学生23名、教職員6名の計29名(写真1)だった。参加者には、感染予防として旅のしおり及び口頭で、手指消毒、検温、バス座席の指定、大きな声での会話の自粛、ソーシャルディスタンスの確保を呼びかけた。天候にも恵まれ大変有意義な一日だった。本稿では、2021年度の見学ツアーについて報告する。

見学ツアーの行程は、以下の通りである。午前8時30分定刻通りに出発した。午前10時に竹田市内に到着。竹田市立図書館、竹田歴史文化館・由学館を見学後、竹田市の城下町散策をした。最後に、岡城址を訪ね、定刻17時15分に大学に帰着した。施設見学にかかる料金(竹田市立歴史文化館・由学館企画展観覧料及び岡城址入場料計600円)は申込時に徴収した。

主な見学先施設の特徴について紹介する。竹田市立図書館は、城下町再生プロジェクトの先鋒として選ばれ、新図書館を新築し2017年(平成29年)5月21日に開館した。竹田市立図書館での案内は、本学司書講習の2019年度修了生(写真2)だった。

続いて、アンケート調査の結果を報告する。アンケート調査は、Google Formを利用し、全参加者を対象に行った。回収数は29名中16名(55%)だった。アンケート調査の概要を表1に示す。

表1 アンケート調査概要

	全体 (n=29)	学生 (n=23)	教職員 (n=6)
回収数	16名	13名	3名
回収率	55.2%	56.5%	50.0%

アンケート調査の質問項目は、参加者の属性、図書館の利用頻度、見学時間、引率教員の対応、見学ツアーの満足度など全20項目を設定した。以下では、主な項目について結果を示す。

表2は、見学ツアーの開催時期についての結果である。参加者からは、「試験等と重ならず、天候が良い時期での開催で紅葉も楽しめた」との回答が多くあった。悪かったと回答した理由は、「4年生のため卒業論文等で多忙な時期だった」と回答していた。

表2 見学ツアーの開催時期はどうでしたか?

	良かった	悪かった
回答数	15名	1名
回答率	93.8%	6.2%

表3は、行程についての結果である。「見学時間が計算されており隅々まで見学できた」「友人と感想を共有できる余裕が持てた」といった声が寄せられた。

表3 タイムスケジュールはどうでしたか?

	良かった	悪かった
回答数	15名	1名
回答率	93.8%	6.2%

表4は、見学先の選定についての結果である。

「普段なかなか行くことのできない地域の図書館を見ることができた」といった回答が最も多かった。他にも、「その地域の利用者に合わせた資料収集や郷土資料の勉強になった」とのコメントもあった。また、「歴史文化館・由学館や岡城址を巡ることで地域のことを理解した上で図書館を見学する意義を感じた」とのコメントもあった。

表4 見学先はどうでしたか？

	良かった	悪かった
回答数	16名	0名
回答率	100%	0.0%

表5は、見学時間についての結果である。見学先によって多少のばらつきが見られるものの、概ね適度な時間配分だったと言える結果を得ることができた。

表5 見学時間はどうでしたか？

		長い	適度	短い
図書館	回答数	1名	15名	0名
	回答率	6.2%	93.8%	0.0%
歴史館	回答数	3名	13名	0名
	回答率	18.7%	81.3%	0.0%
散策	回答数	1名	12名	3名
	回答率	6.5%	75.0%	18.5%
岡城址	回答数	1名	9名	6名
	回答率	6.3%	56.3%	37.4%

引率教員については、「ほったらかしにされずに自由度があって楽しかった」「束縛されない」といった自由な雰囲気づくりを評価するコメントが多かった。また、「図書館のバックヤードも見せてほしいとお願いしてくれた」「退屈しないよう話しかけてくれた」といった学生に寄り添う対応を評価するコメントもあった。

全体的な評価については、「コロナ禍のため久しぶりに遠出ができて楽しかった」「普段行くことのできない地域の普段見ることのできない図書

館の仕事を見ることができて勉強になった」など大変好評だった旨のコメントが寄せられた。

今回、全学生を対象に広報を行ったにも関わらず、司書課程履修学生のみでの参加となった。今後は、司書課程履修者以外の学生の参加をも促す広報活動に注力したいと考える。また、次回開催を希望する声が多数あることから年2回の開催も検討したい。



写真1 集合写真 竹田市立図書館にて



写真2 見学風景
案内をする司書講習修了生



附属図書館 1階をリニューアルしました

令和3年3月15日に、図書館1階を Library Lounge (ライブラリーラウンジ) としてリニューアルオープンしました。新着図書・雑誌・新聞閲覧や企画展示といった従来の図書館機能に加え、読書会などのイベントが開催出来るアクティブな学びの場を提供しています。令和3年12月2日から全3回のリニューアル記念コンサートも実施し、学内外から多くの方に来場いただきました。今後も様々なイベントを企画していく予定です。

<企画展示>

	1 階	2 階	3 階
4月	「未来へ展」 はじまり	「未来へ展」 現在	「未来へ展」 未来へ
5月	佐藤義詮先生、大学史、図書館の歴史等	貸出ランキング、学生選書本、新生活に役立つ本等	今後の企画イベント案への投票、別府湾の眺望、佐藤義詮先生の言葉展示等
6月	佐藤義詮先生、大学史	Excel&Word	「未来へ」展振り返り展示
7月		第165回芥川賞・直木賞候補作	新たな本に会おう
8月		怪談	～オススメ本を紹介してみませんか?～
9月		月	図書館豆知識～シラバス図書編～
10月		料理本	図書館豆知識～雑誌編～
11月	論文の書き方／	これまでの学生リクエスト本	リクエスト本募集
12月	佐藤義詮先生、大学史	利用者からのおすすめ本	
1月	テスト、論文・レポート作成に役立つ資料／佐藤義詮先生、大学史	入門書	図書館おみくじ

<リニューアル記念コンサート>

Opening New Doors

開催日	出演者 (敬称略)
令和3年12月 2日	KUMIKO & Kai (ハワイアン)
令和4年 1月 8日	小野未希(フルート) 伴奏: 小町美佳
令和4年 1月22日	溝口伸一(クラシックギター) ※オンライン配信のみ



▽4月展示:「未来へ」



▽9月展示:「月」



▽コンサートの様子 (KUMIKO & Kai)



第12回 選書ツアーの実施

学生が図書館に置きたい本を選ぶ「選書ツアー」を今年度も実施しました。昨年度は新型コロナウイルスによる感染症拡大の状況を鑑みてオンラインでの実施でしたが、今年度は書店訪問とオンラインの2通りの方法で行いました。

書店訪問は2021年11月8日(月)から12日(金)の5日間、オンラインは2021年12月8日(水)から14日(火)の7日間で実施し、合計10名の学生が参加しました。購入した図書の数には51冊です。学生が選んだ本は紹介POPを付けて図書館内にて展示予定です。

●選書本リスト (一部抜粋)

- 地中海世界の中世史
- 光源氏と女君たち 十人十色の終活
- なりきり訳枕草子 平安の衣食住を知られは古典がわかる
- 春や春
- ありのままがあるところ
- 日本の文学者36人の肖像 (上)
- 1日1話5分で身につく歴史の教養365
- 和歌と暮らした日本人
- 英語が話せる人はやっている魔法のイングリッシュルーティン
- 思考の取引